SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGs － Sustainable Development Goals －持続可能な開発目標

MICEにおけるサステナビリティ横浜の取組事例

YOKOHAMA
JAPAN'S FIRST
PORT OF CALL

はじめに

持続可能な社会の実現に向けて、SDGs の達成への取組は企業、団体、自治体や機関において本格化しており、MICE の誘致・開催に際しても、サステナビリティ対応の重要性が今後更に増してまいります。
観光・MICE 都市として、国際競争力を強化するため、横浜のサステナビリティとは何かを皆様と一緒に追求し続けることで、横浜の強みとしていきたいと考えます。
そこで、昨年発行した「MICE におけるサステナビリティ　取組への入門書」に続き、すでに各企業が取り組まれている事例を共有する「MICE におけるサステナビリティ　横浜の取組事例」を作成しました。

公益財団法人 横浜観光コンベンション・ビューロー

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

CONTENTS

事例集の発行によせて…… 4
会　　場　パシフィコ横浜 …… 6
ホ テ ル　横浜ベイシェラトン ホテル & タワーズ …… 7
飲　　食　株式会社きじま …… 8
飲　　食　NPO法人フードバンク横浜 …… 9
交　　通　京浜急行電鉄株式会社 …… 10
関連サービス　株式会社ダイイチ …… 11
【参　考】　SDGs との紐付け早見表…… 12

事例集の発行によせて

SDGs が あなたの会社を 飛躍させる 3 つの理由

最近いろいろなところで SDGs という単語を見かけることが増えてきました。そのような中で、今回横浜観光コンベンション・ビューローが SDGs の事例集を発行されることを大変嬉しく感じています。

第一の理由は、SDGs はすべての組織、すべての人々が取り組むべき課題だからです。なぜなら、今までのやり方では社会も組織も、残念ながら「持続不可能」だということが非常にはっきりしてきたからです。だからこそ私たちは、持続可能を目指す必要があり、そのためのポイントを整理したものが「持続可能な」開発目標（Sustainable Development Goals）なのです。

一例を挙げましょう。気候変動の進行で、日本でも大型の台風やゲリラ豪雨、猛暑の日の頻度が明らかに上がってきています。海沿いに集中する横浜の MICE 関連施設が、近い将来大きな被害を受けないとも限りません。2019 年の冬、ベネチアはその大半が高潮で水没しましたし、インドネシアのように首都移転を検討しはじめた国もあります。

増え続ける出張者や旅行客は、残念ながら CO_2 の大きな排出源となっています。けれども、アメリカのジェットブルーは今年 7 月から米国内線を全便カーボンニュートラルにすることを発表していますし、インド南部のコーチン国際空港はすでに 2016 年から太陽光のみで運営されています。

SDGs の課題に取り組むことは、こうした大きな飛躍を生み出す可能性にも満ちています。MICE とより関係するところでいえば、アメリカの MGM リゾーツは、宴会の食べ残し、正確に言うと準備したけれど宴席に並べられなかった食事を急速冷凍し、それを本当に必要な方々に届けるというプログラムを 2017 年から行っています。

食品廃棄物は、エネルギー、水に並んで、MICE における大きな負荷の一つです。それをこうしたポジティブな形で解決することは、お客様にとっては大きな付加価値になり、それに関わる従業員にとっては大きな誇りやモチベーションになるでしょう。

もしそんな取組がたくさん行われている MICE ディスティネーションであれば、あなたもきっと訪問して、実際にその様子を見てみたくなるのではないでしょうか？そうなのです、実は SDGs の取組そのものが、ディスティネーションとして選ばれる理由にもなり得るのです。

サステナブル・ブランド・プロデューサー
足立（あだち） 直樹（なおき） 氏

株式会社レスポンスアビリティ代表取締役。一般社団法人企業と生物多様性イニシアティブ理事・事務局長。東京大学・同大学院で生態学を学び、博士（理学）。国立環境研究所とマレーシア国立森林研究所（FRIM）で熱帯林の研究に従事した後、独立。2006 年にレスポンスアビリティを設立し現在に至る。2008 年からは企業と生物多様性イニシアティブ（JBIB）事務局長も兼務。

美しい景観や歴史的な遺産で選ばれる観光旅行のディスティネーションと異なり、MICE では、選ばれるための理由を自分たちで作る必要があります。事業や街を持続可能にする取組は、国内はもとより、世界中の人々が興味を持つコンテンツでもあるのです。

いまご紹介したいくつかの事例は、いずれも世界の最先端です。ですから、「こんなことは私たちにはとてもできない…」、そう感じても無理はありません。しかし、諦める必要はまったくありません。

SDGs は、まだ誰も完璧には達成していない未完のジャーニーです。これに取り組むことで様々な発見があり、その過程にこそ意味があるのです。取組の難易度や影響度で優劣を競うものではなく、持続可能な将来に向かって進むことが重要なのです。そして、そうした取組を地域に広げ、より多くの組織や人々が一緒になって取り組むようになることで、もっと大きな力を発揮することができるでしょう。

ですから、自社が SDGs の課題に対応したイベント等の実施・運営ができるようになるのは、これからの事業成功の前提条件ですが、それを通じて自社や地域の持続可能性も高めることはもっと重要です。自社の活動を通じて、関係者や参加者に啓発を行ったり、あるいは横浜観光コンベンション・ビューローが横浜全体を持続可能にするための核やプラットフォームになることもできるのです。

このように、SDGs に取り組むことには少なくとも 3 つの大きな理由があります。

（1）これから事業を続けるための前提条件であること

（2）MICE ディスティネーションや事業者として選ばれるための理由になること

（3）横浜を持続可能にするために貢献するチャンスであること

です。

そう考えると、今回このような事例集が発行されるのは大変時宜を得たことであり、またこれは皆様方の事業をさらに飛躍させるための便利なガイドブックと言ってもいいでしょう。ぜひこの事例集をご活用いただき、自らの持続可能性を高めながら、世界の目標達成のために貢献していただくことを期待しています。

会　場

パシフィコ横浜

地球にやさしい MICE 環境の提供を目指して

持続可能な MICE の開催を推進

国内最大級の複合 MICE 施設、パシフィコ横浜は、サステナブルな施設運営の実現を目指して、環境負荷の低減をはじめとした様々な取組を進めています。ここを会場として開催される年間約 1,000 件の会議・イベントは、来場される 430 万人を超えるお客様とともに、世界ではスタンダードとなりつつある「持続可能な MICE 開催」を実現しています。2020 年 4 月には、新施設「パシフィコ横浜ノース」が加わります。国内最大規模約 6,300㎡の多目的ホールと大中小 42 室の会議室からなるパシフィコ横浜ノースの誕生により、「地球にやさしい MICE 環境の提供」の機会をさらに増やしていきます。

産業廃棄物・食品廃棄物から発電した電力を施設内で活用

施設から発生するすべてのごみを資源にする取組を進め、廃棄物リサイクル率約 90％を実現しています。

なかでも、施設内で排出した産業廃棄物の焼却により発電した電力と、施設内で排出した食品廃棄物をメタン発酵してバイオマス発電した電力を、臨港パークへ供給する循環型エコシステムは、徹底した分別収集で、発生するゴミの量が把握できているからこそ実現できる新しい取組です。

また、食品廃棄物の収集も EV パッカー車で行っており、食品廃棄物の電力活用と併せて、いずれも国内初となる取組です。

主な取組

- ◆屋上緑化、雨水再利用システム、窓フィルム施工による省エネルギー、空調自動制御
- ◆産業廃棄物 100％リサイクルへの取組、産業廃棄物・食品廃棄物エネルギーの地産地消
- ◆EV・PHV 用普通充電器の設置
- ◆食を通じたサステナブル（横浜産の新鮮な食材、ブルーシーフードの提供）
- ◆夢ワカメワークショップ（ワカメによる海の浄化活動）への参加

パシフィコ横浜：
https://www.pacifico.co.jp/pacifico/approach/sustainability/tabid/610/Default.aspx

ホテル

横浜ベイシェラトン ホテル&タワーズ

Best Smiles For You
～最高の笑顔をあなたに

横浜産カンナ削りの木のストロー「SDGs ストロー・ヨコハマ」普及・拡大を支援！

ホテル内の各レストラン・バー等ではすでにストローを紙製にしていますが、ヨコハマ・ウッドストロー・プロジェクト※の取組主旨に賛同し、2020 年 2 月から「SDGs ストロー・ヨコハマ」を導入、その認知度促進と普及・拡大を支援しています。

この横浜産の木のストローは、山梨県道志村内の横浜市が保有する水源林の間伐材を原材料とし、市内企業の特例子会社等で障がい者の方々が制作しています。

※ヨコハマ SDGs デザインセンターが進めるプロジェクトの一つ。横浜産の木のストローの普及を通じ、温暖化対策や海洋プラスチックゼロエミッション、森林環境保全や天然資源の有効利用、あらゆる人の活躍、新たなビジネスモデルの構築等を目指し、環境・経済・社会的課題の統合的解決を図る。

食品資源を堆肥にして生まれたエコ野菜をレストランで提供

2008 年から、生ごみ処理機を導入し、レストラン等から出る食品資源を再生処理し、農家の堆肥の原材料として使用しています。

なお、その堆肥で育つ野菜を、「シェラトンベジタブル、ヤサイクルから生まれたこだわりのエコ野菜」として、ホテル内のレストラン等で使用し、自立循環型リサイクルループの完結を実現しています。この取組により、平成 30 年度横浜市食の 3Rきら星活動賞（再生利用部門）を受賞しました。

環境保全活動でプレゼントも

また、お客様からの環境保全活動も応援しており、連泊のお客様が部屋の清掃を不要とした場合や、EV 車で来られたお客様には、ホテル内レストランで利用できるチケットをプレゼントしています。

主な取組

◆客室内のアメニティを順次ボトルからポンプ式へ切り替え、プラスチックフリーを推進
◆電気自動車およびプラグインハイブリッド自動車に倍速充電（通常の駐車料金のみお支払いのみで、充電無料）種類：EVC1　単相 AC200V
◆アクセシブルルーム（バリアフリー）、車いす専用駐車場、車いすの貸出、車いす用エレベーター等対応
◆授乳室の完備

横浜ベイシェラトン ホテル & タワーズ：https://yokohamabay-sheraton.co.jp/

飲　食

株式会社きじま

「美味しい和食と豊かな海を、未来もずっと」

持続可能な水産物の利用（サステナブル・シーフード）

鮮度抜群の海の幸を使った和食レストランとして地元横浜に根付き、人生の節目に来られるお客様も多いきじまは、2017 年に「食を通じて持続可能な共同体の創造と発展に寄与する」という新たな理念を掲げ、さまざまな取組をスタートしました。

店で使用する食材や調味料を、安心・安全でサステナブルなものに順次切り替え、2019 年から、日本料理店では初めて、持続可能な水産物においてもっとも信頼できる国際認証である「海のエコラベル」MSC 認証・ASC 認証を取得した水産物の利用を開始しました。

FSC® 認証のお箸・SDGs に基づいた企業運営

食材調達だけでなく、プラスチック削減のため、ストローや仕出しのお弁当箱は紙製に切り替え、また店内で使うお箸は全て FSC® 認証のものへ切り替えるべく取組を進めています。さらに、海を守る施策のひとつとして、調理場では石油由来の合成界面活性剤を使用した合成洗剤の完全撤廃を達成しました。こうした安心・安全でサステナブルな取組を進めるためのコストを吸収するために、数年前よりいち早く事業の IT 化を進め、予約情報・顧客情報を一括管理して来店者の見込みを予測し、従業員の労働時間やフードロスを大きく削減しました。地域のお客様に「食」のすばらしさと豊かさを提供し続けるために、社員全員がひとつになって取り組んでいます。

主な取組

- ◆「化学調味料・各種エキス類・保存料・合成着色料・合成香料」無添加の調味料
- ◆有機／自然栽培農産物の利用促進
- ◆動物福祉（アニマルウェルフェア）と安全性に配慮した畜産物の調達
- ◆持続可能な水産物の利用
- ◆プラスチックの削減
- ◆FSC® 認証割り箸の使用
- ◆合成洗剤の撤廃

株式会社きじま：https://kijimagroup.co.jp/

飲　食

NPO法人フードバンク横浜

フードバンク横浜× SDGs with 企業・団体・個人

フードロスから食料支援へ

多くの企業・団体、個人の方から、まだ食べられるにもかかわらず廃棄されてしまう食品（いわゆるフードロス）を譲り受け、様々な団体や、食に困っている人々へ無償提供し、食を通じて健康と安心を届けています。

教育の無償提供

この活動を通して、経済格差に基づく教育格差の問題に直面したフードバンク横浜は、「貧困の連鎖」を断ち切るため、2018 年に無料の「e ラーニングこどもみらい塾」を、企業と連携して開塾しました。経済的に恵まれない環境に育つ子どもたちも大きな夢を抱き、その夢を叶えるスタートラインに立てるよう支援をしています。

地元でのパートナーシップ

閉店時に店内にある調理済みの食品を冷凍保管してこども食堂へ提供するプロジェクトなど様々なコラボレーションを実現してきています。今後さらに地元企業・団体とのパートナーシップを強め、横浜から持続可能な社会を実現するための取組を進めていきます。

主な取組

- ◆シングルマザー・シングルファザーへの食材等の無償支援（ひとり親支援）
- ◆小中高生に対するお米の無償支援（奨学米）
- ◆生活困窮者への緊急支援（安心米）
- ◆街ともさん（まちとも＝ホームレス）への食糧等の無償支援
- ◆e ラーニングこどもみらい塾
- ◆こども食堂への食材等の無償支援
- ◆高校生の居場所カフェなどへの食材等の無償支援
- ◆障がい者支援団体／寄り添い方支援団体／子育て支援団体等への食材の無償提供

特定非営利活動法人（NPO法人）フードバンク横浜：https://fbyokohama.jp/

交　通

京浜急行電鉄株式会社

あんしんを
羽ばたく力に

資源やエネルギーの有効活用

鉄道はエネルギー効率に大変優れた交通機関ですが、電車の運転本数の増加や、エスカレーターやエレベーターを設置することにともない、必要とする電力が増加する傾向にあります。そのため、エネルギー効率に優れた新型車両の導入を進めているほか、駅や事業用建物においても、ＬＥＤ照明やエネルギー管理システムの導入などにより、省エネルギー化を推進しています。
また、最新車両では車両部品にリサイクル可能素材を使用するなど、資源やエネルギーの有効活用を図り、低炭素社会の実現を目指しています。

公共交通機関の利用促進「ノルエコ」プロジェクト

鉄道・バスなどの公共交通機関は、エネルギー使用量が少なく地球温暖化の原因となる CO_2 の排出量も少ない乗り物であることから、公共交通機関へのモーダルシフト活動「ノルエコ」（＝乗る（ノル）だけでエコ）プロジェクトを推進しています。

訪日外国人客への多言語サポート

品川駅、羽田空港第３ターミナル駅に設置している訪日外国人客向けの観光案内所「Keikyu Tourist Information Center」（KEIKYU TIC）では、日・英をはじめとした多言語対応可能なコンシェルジュが乗車券の発売のほか、交通・観光案内を行っております。「KEIKYU TIC(Haneda Airport T3)」は、日本政府観光局（JNTO）から最高ランクとなるカテゴリー３の認定を受けています。
また、京急線の各駅では、「おもてなしガイド」アプリを活用した多言語案内を実施しています。発車番線などの案内のほか運行情報や路線図、周遊券や企画乗車券などのお得なきっぷ、無料Wi-Fi の利用方法などが自由に確認できます。

人に、地域に、未来につなぐ。
京急グループSDGs

主な取組

◆「ノルエコ」プロジェクト　◆省エネ車両の導入
◆リサイクル可能素材を使用した車両新造
◆「おもてなしガイド」アプリを活用した多言語案内
◆「KEIKYU TIC」での手ぶら観光サービス、MICE サポート業務、宿泊・観光施設予約手配及び発券、外貨両替 など

京浜急行電鉄株式会社：https://www.keikyu.co.jp/

関連サービス

株式会社ダイイチ

企業ユニフォームはデザイン・機能重視からサステナビリティの時代へ

環境貢献に繋がる商品、システムの提案

企業ユニフォームを通じて、働く人が輝ける環境を提供し続け、その地域・社会のより一層の発展に貢献することを目指しています。
これまで、ユニフォームはデザイン・機能を重視して選ばれてきましたが、SDGs への取組が社会に浸透してきたことで、「サステナブルであるか？」も選考ポイントの一つになってきました。そこで、環境貢献につながるエコ商品（ペットボトルから生まれた再生ポリエステル繊維を使用する商品ほか）の提案や、最近では、着なくなったユニフォームを原料としてポリエステル繊維を生み出す最新リサイクルシステムの紹介を積極的に行っています。
ユニフォームに多く使用されるポリエステル繊維は石油由来です。この新しいリサイクルシステムによって、すでに地球上にあるポリエステル繊維を再びポリエステル繊維に、そして衣服に戻すという循環を実現することが、エネルギーをめぐる紛争の回避や、廃棄・焼却により排出される CO_2 の削減につながります。

横浜ブルーカーボン・オフセットに参加

2018 年には、横浜 FC エスコートキッズが着用するＴシャツの製造工程と、地域清掃用ベストの縫製時の電力・輸送にかかる CO_2 排出量、市内 16 スポーツセンターに販売するネックストラップの製造にかかる CO_2 排出量をオフセットするため、「横浜ブルーカーボン・オフセット制度」に参加しました。

©YOKOHAMA FC

主な取組

◆環境貢献型ユニフォームの積極的な提案・販売
◆女性の活躍（企業男女比　女性 49%、男性 51%）
◆社内 CSR 委員会による毎朝の地域清掃、NPO法人美しい港町横濱をつくる会一斉清掃
◆ピンクシャツデー活動等地元ボランティア活動

株式会社ダイイチ：https://www.un-daiichi.co.jp/

【参考】SDGsとの紐付け早見表

分野	取組内容	取組の対象となるキーワード	
エネルギー	使用量削減	省エネ　節電	7, 13
	エネルギー転換	燃料電池　天然ガス 再生可能エネルギー	7, 13
資　源	使用量削減	節約　コピー用紙 電子媒体利用　工程転換	12
	利活用	再生利用　バイオマス 未利用資源（間伐材など）	12, 15
廃棄物	発生量削減	一般廃棄物　産業廃棄物 長寿命製品	12
	3R リデュース・リユース・リサイクル	リターナブル容器　修理　再利用	12
大　気	温室効果ガス 排出量削減	CO_2　フロン　カーボン・オフセット モーダルシフト　エコドライブ	11, 13
	大気汚染物質 排出量削減	ばい煙（NOx、SOx）　VOC モーダルシフト　エコドライブ	3, 11
水	使用量削減	水道使用量　節水　循環利用 中水利用　雨水利用	6
	排水管理	下水道排水　排水処理 水質汚濁防止	6, 14
生物多様性	調　達	原材料調達 認証制度（FSC、MSC、ASC、CoC）	14, 15
	事業所・社有地 での生物多様性	緑化　植林　ビオトープ 社有林の保全・活用	15
	環境教育	社員教育　教材　教育支援　啓発	4, 15
製品・ サービス	原材料	再生原材料　認証原材料 グリーン購入	12
		オーガニック　フェアトレード	1, 2, 8, 12, 15, 17
	開　発	低燃費　長寿命化　節電 環境ラベル　環境配慮設計	7, 9, 12, 13
	製造工程	製品アセスメント　省エネ 環境負荷低減	7, 9, 12, 13
	流　通	CO_2削減　簡易包装	7, 12, 13
雇　用	条　件	高齢者雇用　障害者雇用 人権　出産　育児　介護	3, 5, 8, 10
	環　境	ワーク・ライフ・バランス 研修制度　福利厚生　働き方改革	3, 8
社会・地域	貢　献	地産地消　防犯　防災　寄付 環境教育　途上国支援	4, 11, 12, 16, 17
	配　慮	景観　騒音　振動　悪臭　緑化	3, 11, 15

出典：「すべての企業が持続的に発展するために―持続可能な開発目標（SDGs）活用ガイド―[第 2 版]」（環境省）
http://www.env.go.jp/policy/sdgs/guides/SDGsguide-honpen_ver2.pdf を加工して作成

編　集・発　行：公益財団法人横浜観光コンベンション・ビューロー
編集協力・印刷：株式会社大川印刷

この冊子の PDF ダウンロード
はこちらから。